

## 黄化えそ病(仮称)キュウリ、メロン

平成8年12月26日

高知県病害虫防除所

### 平成8年度病害虫発生予察特殊報第2号

1. 病害虫名黄化えそ病(仮称)
2. 発生作物キュウリ、メロン
3. 病原メロン黄化えそウイルス(melon spotted wilt virus:MSWV)
4. 特殊報の内容キュウリでの本邦初発生、メロンでの本県初発生を確認
5. 初発生の確認された時期キュウリは平成6年10月、メロンは平成7年12月
6. 発生場所須崎市、土佐市、春野町、伊野町
7. 発生確認の経緯と発生状況
  - 1)平成6年10月、須崎市浦ノ内地区の施設栽培キュウリで、葉にモザイク、えそ斑点を伴うウイルス病が発生し、平成7年5月には、9戸の農家で発生を確認した。
  - 2)病原ウイルスは、汁液接種によりキュウリ、メロンに全身感染し、静岡県で発生したメロン黄化えそウイルス(MSWV)の抗血清と反応したので、MSWVか近縁のウイルスと考えられた。
  - 3)平成7年9月には、露地キュウリでも発生し、その後、同年11月には土佐市、春野町、平成8年10月には伊野町でも発生が確認された。
  - 4)一方、メロンでは、平成7年12月に須崎市の施設メロンで初めて発生が確認され、平成8年10月には、土佐市、春野町でも発生し、被害が拡大している。
  - 5)日本では平成3年に静岡県の施設メロンでの発生が報告されている。それによると接種試験では、メロン以外にスイカ、ユウガオ、シロウリ、ホウレンソウなどで全身感染するとされている。

### 8. 病徴

キュウリでは、感染時期などの違いにより種々な症状が現れるが、主に、生長点付近の葉に葉脈透化が見られ、上位葉はモザイク症状となり、その下の葉は多数のえそ小斑点を伴う黄化葉となる。但し、果実には特に症状は見られない。

メロンでは、感染時期により葉位は異なるが、葉に小さなえそ斑点が多数形成され、黄化する。果実では、ネット形成の異常や糖度の低下が見られる。

低温期は、感染してから症状が現れるまで約1ヶ月要する。

### 9. 伝搬方法

- 1)ミナミキイロアザミウマによって媒介される。幼虫のみがウイルスを獲得し、成虫が永続伝搬する。経卵伝染しない。
- 2)静岡県では、ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマによっても媒介されることが報告されている。

3) 汁液伝染の可能性は低く、土壌伝染、種子伝染はしないと考えられる。

## 10. 防除対策

1) 発病株の早期発見、早期除去に努め、伝染源をなくす。

2) 媒介虫であるアザミウマ類の防除を徹底する。

3) アザミウマ類の防除に当たっては、薬剤防除だけでなく、ハウスサイドや天窓などの寒冷紗被覆、紫外線カットフィルムの利用、苗による本圃への持ち込み防止、栽培終了時の蒸し込み処理、ほ場及び周辺の除草等、耕種的・物理的な防除対策を積極的に取り入れる。